

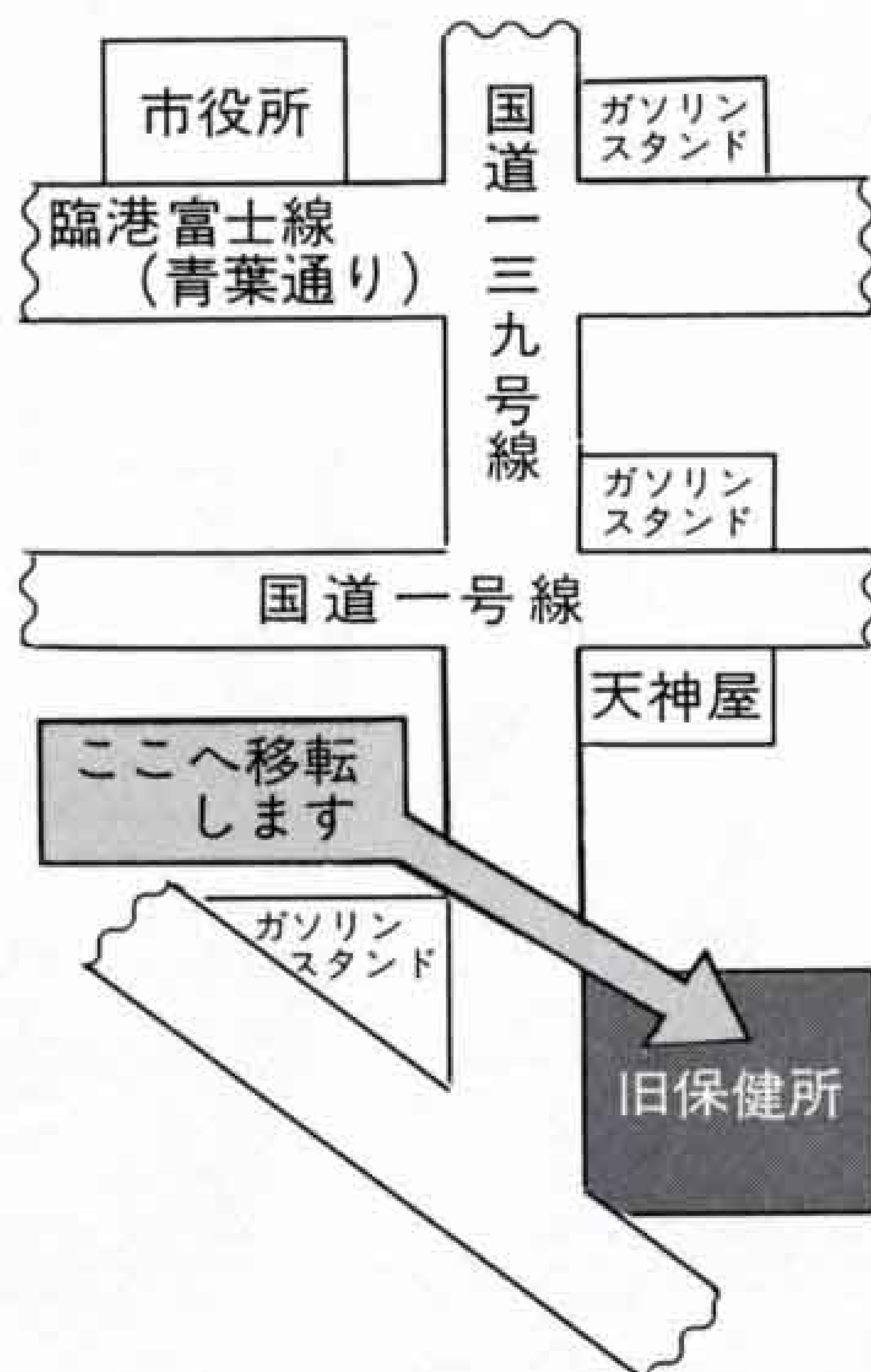
救急医療センター

新しく生まれ変わります

診療科目は内科・小児科です

「夜中に急におなか痛くなった、子供が突然、高熱を出した」このような急病人のための施設が救急医療センターで、富士市医師会の協力によって運営されています。

現在の医療センターは、伝法の富士市医師会館内へ併設され、年々ふえる救急患者に対応するには手狭となってきました。また、場所がわかりにくく、道路も狭いなどの声も聞かれ、早急に整備する必要があります。そこで、市内津田の旧保健所跡地へ新しい救急医療センターを建設し、救急患者への対応を図ることになりました。新しい医療センターは、来年四月一日オープンの予定です。



- ▽所在地 市内津田連台場 (旧保健所跡地)
- ▽建物構造 鉄筋コンクリート造り二階建て
- ▽延建築面積 五百七十六・六平方メートル
- ▽診療科目 内科・小児科
- ▽診療時間
平日：午後七時～翌朝八時
土曜：午後二時～翌朝八時
休祭日：午前九時～翌朝八時

救急患者の状況

市内の内科・小児科の救急医療診療状況（一次救急）は、昭和五十九年に一万三千四十一人でしたが六十年には、二万九百九十五人と二年間に七千九百五十四人もふえました。特に、昨年の四月、内科・小児科の救急医療を従来の在宅輪番当直制を廃止し、すべてを医療センターで行うようになってから利用者が急増してきました。

救急医療の診療状況

区分	59年	60年	61年
一次救急			
医療センター	9,845人	9,766人	20,995人
市内医療機関	3,196	4,721	—
計	13,041	14,487	20,995

そこで、利用者へのいっそうの対応を図るため新しい施設の整備が急務となりました。





救急医療センター完成予想図

わかりやすい場所(旧保健所跡)へ移ります



△救急患者の診療(現在の医療センター)

十分なスペースを確保

新しい救急医療センターは、市内津田、旧富士保健所の跡地へ建設されます。設置位置も広い道路に面した大変わかりやすい場所となります。

事業費は、一億六千三百三十万円、敷地面積千九百八十一・五平方メートル、鉄筋コンクリート造り二階建てで、延建築面積は、五百七十六・六平方メートルです。

診療室や観察室も十分なスペースをとり、救急用の入口も設置されます。

現在の施設は、進入路が迷路のようになっているため、市民からわかりにくい場所だとの指摘をさ

れていましたが、移転によって、この問題も解決されます。

診療体制は、現在と同じで、診療科目は内科・小児科の二科。診療時間は、平日が午後七時から翌朝八時、土曜日が午後二時から翌朝八時、休祭日が午前九時から翌朝八時までです。

医師は、医師会の医師と大学(浜松医大、慈恵会医大、聖マリアンナ医大)からの派遣医師が担当します。

医療センターの

正しい利用を

救急医療センターは、突発した急病患者のための施設です。

また、あくまでも平日夜間及び土曜日の午後、日曜日、祝祭日に発病した、急病患者を診療するためのものです。

急患でない人、平日の昼間から具合の悪い人は、昼間、かかりつけの医師の診療を受けてください。

外科・産婦人科など救急医療センターで扱っていない救急医療については、ダイヤル案内 ☎ 五一九九九で当番医を確認して、受診してください。

医療センターは

☎ 五一〇〇九九

平日夜間及び休日当直医の

問い合わせは

☎ 五一九九九